

北辰会報

第28号

発行者 大阪府立北野高等学校
定時制課程同窓会北辰会
会 長 岡 田 多 間
編集者 事務局 前 田 直 人
事務局 〒666-0262
兵庫県川辺郡猪名川町伏見台1-2-97
TEL・FAX 072-766-4170
maeda-inagawacho@gaia.eonet.ne.jp

印 刷 株式会社グラフィカ
DTP TEL 06-6765-1210 FAX 06-6765-1211
デザイン info@graphic-a.net

迫りくる高齢化、頑張る北辰魂

北辰会会長 おかだ たもん 岡田 多間 (18期)



皆様、お元気でしょうか。ロシアによるウクライナ侵略戦争が始まりウクライナと世界中の人々に恐怖と不安をまき散らしています。

北辰会は2021年も前年同様に新型コロナウイルス感染拡大の影響で北辰会活動に大きな影響を受けています。2年連続北辰会活動は停滞しています。

幹事会、各期の同期会や親睦会、また2022年開催予定の北辰会総会も開催の目途が立っていません。次期総会の日時は可能な限り速やかに決定する予定です。

私たちの青春のオアシス、北辰会の仲間との語らいも少なくなり、また長年北辰会を支え続けて頂いたご高齢の諸先輩の訃報も多く届いています。

更に大きな問題があります。それは、北辰会の推進役として活動して頂いている常任幹事や各期幹事の方々の高齢化の問題です。同期会も幹事の高齢化、固定化が進み、同期会の解散も見られます。閉課程から13年が経過し、会員の高齢化は必然ですが、戦後の高度経済成長期以降の定時制課程の位置づけの変化とも相まって、31期（1972年卒業）以降の若い会員の結集が出来ていません。活動推進母体の若返りが望めない現状です。推進役の高齢化は北辰会の運営に支障を来しております。

そのような中で北辰会は、毎年「北辰会報」を発行し、北辰会ホームページに会員の声を掲載して情報交流を行い、文集の発行を行って参りました。拡大常任幹事会では役員不慮時の対策案を持ちながら、今後の北辰会の存在について検討を始めました。

北辰会は昭和16年（1941年）に発足し、現在まで81年間活動を続けて来ています。この間には多くの有為な人材が世の中で活躍されており、定時制同窓会として栄えある輝きを発していると思います。その中に身を置く役員として嬉しく誇りに思っています。

北辰会は昭和16年（1941年）に発足し、現在まで81年間活動を続けて来ています。この間には多くの有為な人材が世の中で活躍されており、定時制同窓会として栄えある輝きを発していると思います。その中に身を置く役員として嬉しく誇りに思っています。

目 次

会長からの挨拶	1	歴史探訪 御願塚古墳	12
北野高等学校天野誠校長先生を表敬訪問	2	皆様からのたより(2)	17
川野卓志様(23期生)から北辰会に絵画の寄贈	3	事務局からの報告	22
皆様からのたより(1)	3	編集後記	24

北野高等学校天野誠校長先生を表敬訪問

北辰会事務局

4月に予定しながら新型コロナの影響により実施できなかった天野誠校長先生と佐々木里佳教頭先生への表敬訪問を、2021年10月20日に新型コロナウイルス新規感染者数が減少したタイミングで実施しました。佐々木教頭先生は体調不良のためお休みでお会いすることができませんでした。岡田北辰会会長以下14名の拡大常任幹事会のメンバーが揃って訪問する事ができて、校長室で和やかに歓談致しました。

表敬訪問は富本佳成北野高校事務長様の司会で進めて頂きました。岡田会長はあいさつの中で、校長先生の座右の銘である「雲外蒼天」にいたく感動したこと、会長自身の在学中や進学後の多少無茶ぶりの学生生活を包み隠さずお話されました。私達メンバーも始めて知る内容でした。

校長先生のあいさつでは、最初に竹本大鶴さん揮毫の「雲外蒼天」の額のお礼がありました。先生は北辰会発行の文集も深く読んでおられ、今の北野高校生徒との違いや感想などのお話もありました。私達にとって親しみやすい校長先生でした。

竹本大鶴さんより校長先生への「雲外蒼天の額」写真卓上ホルダーの贈呈がありました。北辰会参加者の自己紹介では事務局長のエピソード補足もあり、楽しくも短い短い30分の表敬訪問となりました。

(2021年10月20日)



前列:中央:天野誠校長先生 左:北辰会岡田会長 右:小河原副会長
後列:拡大常任幹事会の皆様 (写真撮影時のみ“瞬間”マスクを外して撮影しました)
校長室にて 後壁面に竹本大鶴氏の書「雲外蒼天」

かわの たかし
川野卓志様(23期生)から北辰会に絵画の寄贈

事務局より

23期北辰会常任幹事畑地豊さんより川野さんが絵画を書いておられるとの情報をうけておりました。畑地さんの粘り強いお願いで川野さんの絵画が北辰会HPへ掲載されました。

事務局として川野さんの絵画を北辰記念室に飾りたいと思いました。其の意向を畑地さんに伝え、その労をお願い致しました。

今日(2022年3月30日)、北辰記念室へ仮設置いたしました。川野さん、畑地さんありがとうございました。これで北辰記念室に陳列の絵画は14期増野喬さん寄贈の絵画と合わせて2点になりました。



寄贈して頂いた絵画:チェコ・南ボヘミア州 チェスキー・クルムロフ城

(2022年3月30日)

皆様からのたより(1)

北辰会文集には多くの私が
 ～ゆうべの星、はるけき流れ、
 ほたるに雪に～

23期 キミ オア かねむら きみこ
 KIMI ORR (旧姓 金村 紀美子)
 アメリカ在住

北辰文集届く

高校を卒業して早や60年近くになろうとしている。そして今、初めて北辰文集を手にした。日本から4か月もかかって、やっととどいた文集。

あれは昨年(2020年)の12月30日でした。長旅で疲れ切ったようなパッケージが、迷うことなくサウスキャロライナの私の自宅に届けられた。其の一週間前ぐらいに前田事務局長から「今、本はどこにあるのでしょうか?」とE-mailが入りました。アメリカの郵便局ではずいぶん前に

海外への船便は廃止されている。それでどのようなルートでこちらに届けられるのか定かではなかった。

箱にはたくさんの本が詰まっていたので、先ずもって驚きました。ひょっとして北辰会で編集された本を全部送っていただいたのでは!と思いました。そして思いもよらぬ「スターバックス」のコーヒーの箱を見たときは思わず笑みが浮かびました。「スターバックス」の本場はアメリカじゃなかったかしら! 咄嗟にそんなことがよぎりました。なぜかこの交差が面白く思われた。前田



23期キミさん

事務局長のお心使いでした。有難うございます。アメリカ製でもなぜか日本から届いた「スターバックス」の味は”格別”でした。その格別な味のコーヒーをいただきながら、時間のある限り読みふけりました。最後に手にしたのが北野高校発行の「北野定時制72年史」でした。辞書のように部厚くて、『これは時間のある時にでも読むことにして』と思いながらパラパラめくっているうちに目が釘付けになり、何日間かかかって読み終えた。ただ圧倒されました。すべてが私にとって真新しいことばかりでした。4年間北野に通っていて何を見ていたんだろうと思わずにはいられなかった。

文集を読みながら、どなたが編集されたのだろうと思いを馳せたものでした。その方の名前を知っても、その方がどなたか知る由もないのに、何故か知りたいという思いがこみ上げて来たのでした。

校長先生を含め、諸先生方の生徒たちとの“校友関係”、『教員は父親代わりだった』（北野定時制四十年史）と言われている。クラブ活動を通しての部員たちの人間模様、そしてすばらしい同窓会集会などすべて私の想像を超えるものでありました。

誇らしい我が先輩たち

まさに人間は『環境の産物』のごとく、時代が変わればその変化に応じて、生徒たちの学ぼうとする意欲も変化していくようです。人間は苦勞して成長するのでしょうか！戦争中で物質不足で何かと厳しい生活状況の中で、又いつ徴兵制度（徴兵延期認定も理工学部）の生徒たちにだけは許可が与えられた。このような不公平で不合理な制度をただ黙認していたのだろうか！なんて思いながら）に囚われるかわからない状態でありながらも『自分たちは昼の生徒には負けない。彼らを打ち負かすんだ！』とのガッツは自信満々！このような先輩を誇らしく思いました。

あの頃の入学時の競争率は高く、それを突破して北野の夜間生になったことに誇りをもち、勉学にいそしんだ先輩たち。停電の後、ろうそくの乏しい火をともしながらの授業はまるで物語

を見るようでした。そのような苦學をしながら多くの夜学生が一流の大学や国公立に入学されている。『彼らは言葉だけでなく』、自分たちが『本質本者』であることを立証した。

北辰魂

勤勞学生は時間や経済的に追われながらも、学びの意欲だけは人一倍である。いろいろな事情により学校生活を続けられない人はいる。しかし学びたいと思っている人はまた戻ってくる。そのような人は精魂込めて人一倍頑張る。どんなに苦勞し自分に落胆した人たちも自分で解決し立ち直る。この何事にも動じない精神を育て、一步一步自分の人生を開拓していく。これこそ北辰魂というのでしょうか。『学問は繁榮のドーアーである』といわれるごとく、北野定時制課程の多くの卒業生が国や社会の指導的立場に立ち、貢献し、活躍なさっておられることに大変圧倒されました。特に地方出身の人たちが仕事と夜の学びに挟まれ大変な苦難、苦學を経験されたことも、この文集を拝読して知りました。職を変わればもちろん寮も追い出され、住居も探さねばならぬ。それもアルバイトのような仕事であれば尚更大変。其れも学びたい一心で、新聞配達や牛乳配達をしながら、また夜ラーメン屋をしながら、一流大学や医学部を目指して頑張られた方たち。そのような苦難を乗り越えて多くの人たちが成功されている。信じがたいことです！

このような苦勞の中で彼らが全うできたのは、先生方の熱意や生徒たちへの深い愛情のある交友関係であったという。北野定時制は先生方と生徒が一丸となって『誇りある北野高校』を作り上げられた。この先生と生徒の『交友関係』はどこの学校にも勝るわれらの誇りであると思います。

私の高校時代

最高に楽しい時期でした。今から思うと本当にたわいないことのようにですが、友達やクラスメートと一緒に大阪近郊の山などよく行ったものです。その時の今でも忘れられない苦い思い出がある。クラスメートの何人（10人ぐらひは

いただろうか)かと嵐山に行った。その帰りいつものようにみんな『キセル』をした。駅には電車はすでに私たちを待っているかのように止まっていた。ワイワイガヤガヤ言いながら、みんな一番後ろの車両に乗った。ガラガラであった。“コンダクター”が異様な目で私達を見ていたのを見逃さなかった。ヒヤッとした！彼は知っている！何となく落ち着かなかった。案の定電車が発車してすぐチケットのチェックに来た。我々皆、次の駅で降ろされた。「学校はどこや？」「北野です」、誰も『定時制』とは言わなかった。家路につくまで何かすっきりしなかった。

何時かは大学へ

あの頃、遠足なども行った覚えはないし、先生方との交流はあまり記憶にない。私自身何に対してもガッツとか、野心はあまりなかったようです。また大変自尊心の低い子でした。でもいつも『大学』に行くことを『ひそかに』念頭に置いていました。別に何になりたいというのではなく、自分に自信を持ちたかった。人の前で堂々と自分の意見を言えるような人になったかった。これからは『英語の世界に入る』なんて勝手に思い込み、夜遅く帰宅すれば『疲れて勉強する時間がない』と不満を言いながらも毎日英語の予習復習は欠かさなかった。ところが4年生になって英語の先生が変わって成績が『がく』と落ちた。その時は一瞬落胆した。

そしてついに卒業するまで成績は挽回できなかった。こんなことで大学に行けるやろか。こんな不安な気持ちを打ち消そうと必死だった。またそんなとき『幾何』も落ちた！落胆しているところに新たな落胆に圧縮されて息が詰まりそうだった。卒業した年は経済的な面で受験できなかった。私の職場は梅田であった。

大学へ

卒業後、もう一年そこで務めることにした。そこから程遠くないところに中之島図書館があった。勤務後、夕方5時になると、毎日まっすぐその図書館に通って勉強した。大学受験は家族には内緒であった。父はいつも「女は大学行ったら、理屈っぽくなって結婚できない」といって

いた。家に帰れば10時、帰りが遅いといって毎日、母に怒られた。あの当時から中之島の図書館は人がいっぱいだった。寒い冬、2時間ほど待たされるときもあった。やっと中に入れたら、『ふぁぁと』生暖かい空気が体を心地よく包み込み、いつの間に眠ってしまったのか、目が覚めたらもう帰る時間だった。また、むなしい気持ちが私を不安に追い込む。予備校も行きたいと思った。でも予備校に行ったら大学に行くお金が無くなる理由で行けなかった。『頭があったら』国立でも受験出来たのに。『頭がないから』私立やったら三科目の受験だから何とか行けると考えていた。ある私立の大学を目指していた。そこは授業料が安かったから。試しの試験を受けてみたら『やばいような気がした』これで滑ったらもう大学は行かれへんのや。あの時受験料が5千円だった。受験料の予算は5千円しかなかった。どこの学校に行くか選択の余地などなかった。『絶対合格』が必須であった。それで『やばいギャンプル』はやめて『安全パイ』で行くことにした。私は無事『大学生』になった。もちろんこれも北野高校を卒業出来たおかげである。この二つの結果が、後程、私の人生に何かと大きく貢献してくれたのである。

夜の北野も名門

皆様の投稿を拝読させていただきました。私には多大に学ぶべきところがありました。昼と夜の北野は『雲泥の差』があるといつも自分のレベルで測っていました。でも『雲泥の差』は私だけのようでした。先輩、同窓生、そして後輩たちが社会の一線に立ち活躍なさっておられることは、私のことのように誇りに思い嬉しく思いました。夜の北野もやはり『名門の北野』であるんだと、今しっかりと噛みしめています。このように顕著な学校に我々を導いて下さった校長先生、先生方、先輩の皆様方に心から感謝の意を表します。特に私の担任だった前田先生、南部先生、そして中野先生（先生の奥様“すてき”です！）多分私のことなど覚えておられないと思いますが、あの頃は何かとお世話になりました。すべて走馬灯のように私の思いが駆け巡ります。今、想いは60年前に戻りました！ そし

て北野の校舎にいます。授業に遅れないように薄暗い石の階段を上がりはじめました。どこからか校歌が聞こえてきます。その快いメロディーに合わせて口ずさみながら。ゆっくりと階段を。(何か胸がいっぱいです)

夕べの星の またたきを

理想の影と仰ぎつつ

人は家路に 向かうとき

いさみて集う 文の窓

私が通っていたころの高校時代を思い出すとき、何故かいつも石の階段を上ろうとしている場面なのです。あの歴史ある建物で学んだことは私の永遠の思い出です。いつの間にか背伸びをすれば手が天国に届きそうな年になりました！
諸先生方また北辰会の方々どうかご自愛くださいませ！

事務局より

Kimi さんには、多くの文章とご支援を寄せて頂きました。今回の文章は、私達と共通の想いが詰まり、身近さを一層感じました。さあKimi さんはどう青春を過ごされたのでしょうか。ワクワクする気持ちをお伝えできません。

15期生先輩より 匿名の賛助金

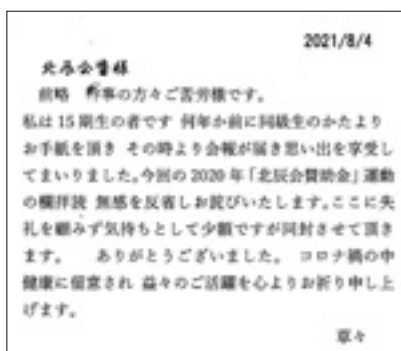
事務局より

先日、宅送された「北辰会報27号」をご覧になられた15期生の先輩より近況のハガキと共に、賛助金が同封されて届きました。

先輩からの初めての賛助金であり、事務局としても感謝の気持ちでいっぱいです。皆様にお知らせすると同時に、15期生の先輩のご健康とご多幸をお祈りいたします。

尚、お名前はご本人の意向により伏せさせていただきます。

(2021年8月16日)



コロナ禍で絵を楽しんでいます

うめたに たけし
26期 梅谷 武



皆さんも、新型コロナウイルス感染拡大の影響で大変な自粛をされていると思います、その中でも私はたまに絵を描いたりバイオリンを弾いたり、体を動かしたり、健康管理に気をつけています。最近絵を描いたのと、富山・八尾の風の盆の切り絵を切りました。

(2021年8月2日記)

事務局より

梅谷さんは、大峰山で山伏修行されたり、金剛登山では法螺貝を吹き般若心経を唱えられ、所有のストラディバリウスの孫弟子作のバイオリンで老人ホームを慰問されたり、八面六臂の活躍をしておられます。最近は中国の拓本を手本に書に取組み、水彩画を楽しんでおられます。この度は、その絵を便りとともに寄稿して下さいました。



久宝寺公園の風景



八尾の風の盆

脳梗塞から 17日間で 歩行回復

19期 かぎやま 鍵山 いさお 伊佐雄



3年前、床坐での夕食後、突然右に崩れ救急搬送してもらいました。右片麻痺・構音障害でした。意識鮮明だったので「2週間後の締め切り仕事」が気がかりでした。

入院4日目ぐらいから終日、ベッド上でつま先上げ・かかと伸ばし。6日目ぐらいからベッドと壁の間で終日、よろけながら左足で片足立ちに挑みました。つぎに履き慣れた草履と棒を持ってきてもらい終日、室内で棒を滑握して両足の片足立ち、つぎに騎馬立ちの繰り返し。数日後には小脳・足裏感覚・脊髄反射で「バランス感覚」の回復を体感しました。

それからは院内階段にて、棒を滑握し裸足にて下り昇りを繰り返し、両足の筋肉もつけました。16日目、理学療法士立会いのもと平地歩行で病院を一周、翌日退院となりました。

運動神経が死んでいても、太極拳でつちかった体幹・バランス感覚が身を助けてくれました。退院翌日には締め切り仕事に間に合いました。

コロナ禍・健康法

[冬眠法]

まず枕を断捨離します。

冷凍した大型アイスノンを2枚、しっかり長タオルで巻きます。

就寝途中で頭が熱く感じて目覚めたらアイスノン枕を裏返します。

尿意で目覚めたらトイレに立たず尿瓶か紙パンツですませます。

(冬も同様に行います。睡眠薬を手放せます。)

[鼻うがい法]

朝・帰宅時・就寝前の3回。

ガラスコップに40度前後の湯水を、なみなみ注

ぎます。(常温はノー)

あら塩ひとつまみ、パラパラ入れます。(塩加減はいい加減に)

右手の親指で右鼻を押さえ、左手で持ったコップを左鼻に近づけ、左鼻から吸い上げます。

(鼻に注ぎ込むのではなく口から吸い上げるように。)

次に左手の親指で左鼻を押さえ、右手で持ったコップを右鼻に近づけ、右鼻から吸い上げます。

(吸い上げた湯水は膿みとともに、すぐ口から出てきます。)

(就寝時も鼻呼吸になります。入息も出息も鼻からです。)

(鼻腔内膜は全身の内膜免疫ネットワークにつながっています。)

(上鼻腔は臭神経を通じて脳に直結しています。)

(八つの副鼻腔は快適な空調装置となり、両肺の肺胞収縮をコントロールします。)

事務局前田より

鍵山伊三雄様には、賛助金運動を始めて以降ほぼ毎回多額の支援を頂いています。

いつも電話でお話させて頂いており、お会いしたことがありませんが、電話の度に北辰会活動に励ましの言葉を頂いたことを思い出します。

①2008年に文集「はるけき流れ」の原稿をお願いした時も快諾を頂きました。その文章には在学当時の世相、学校事情等が生々しく書かれており、凄い記憶力、根性、波乱万丈の人生を送られたお方だなと感じました。

②今回、13年振りにお便りを頂きました。頂いた「脳梗塞から17日で歩行回復」、「コロナ禍・健康法」を読ませて頂き、定時制時代の生き方も年相応になられたと感じました。

先輩、元気で私達の手本となる生き方を歩んでください。

(長い文章となり失礼いたしました。)

2021年8月16日

『まちかどスワイショウ』

コロナ禍の2年が経過しました。

その間公民館でやっていた地元老人会の「気功ヨーガ部」も中止に追いこまれてしまいました。やむなく公民館前の街角で毎夕、扇を使った太極拳(太極扇)や棒を使った太極拳(太極ベンガン)の套路をひとり練習していました。

昨年11月に入ると同年輩や脳梗塞リハビリ中の人が話しかけてこられ、いつしか太極拳・棒術の準備体操(スワイショウや肩甲骨まわし)、ヨーガの呼吸法を組み合わせた街頭パフォーマンスをやるようになりました。

西日が落ちる頃20分間、5人から10数人、日替わり出入り自由の20分間。

なにしろロータリー交差点そばなので、『まちかどスワイショウ』と呼んでいます。(スワイは「ポンと振る」、ショウは「手を」の意です。)

事務局より

脳梗塞から素早く立ち直った19期鍵山さんから事務局に近況報告がありました。

一層、皆様とお元気に関わって居られる事に嬉しく思いました。

～コロナ・プーチンくたばれ ウクライナに平和を～

24期 さかもと しげお 坂本 成男

コロナも大変ですが、ウクライナ情勢、気がかりです、何か支援できる事がないか考えたい。

プーチンの錯乱ぶり、そして取り巻きのイエスマン達よくもまあ「ウクライナには攻め込んでいない」とか、「軍事施設以外は攻撃でないとか対象でない」とか、しらーっと嘘を並べられるかと。あれだけウクライナの罪なき人々を殺し傷つけ、顧みる事もない姿おぞましく。

こちらの国にも内閣府公認118回の大嘘つく、プーチンの大親友が一人おられる。ウラジミールと27回も会った人、核のシェアが必要などのたもうておられますがとんでもない。核の無い世界目指さずどうする。(スルーするメディアも情けなくて涙ですが) 引っ込んでいろ、それよりプーチンに「阿呆やめとけ」と言いロシアに行けば、でも無理か、国の飛行機飛ばして何度も会いながら北方4島返還どころが、金だけぼったくられて返還交渉は頓挫したまま、すすこと。



再々登板とか意欲満々かあ、でもねもう、次はありません引っ込んで。

ウクライナのゼレンスキー大統領の世界に訴えかける姿を見るにつけて、感じるところあるのは皆さん同様かと、支援の方法、工夫しましょう。

キエフ頑張れ、負けるなウクライナ、くたばれプーチン、世界が見ている、おっさんもじっと見ている。

そろそろ桜の季節です。コロナもウクライナもまだ、収まっていませんが皆さんと又、お会いできると楽しみにしています。

感染しないよう十分注意、ご自愛ください。

事務局より

24期 坂本成男さんよりロシアからの人民攻撃が続くウクライナ情勢に寄せてコメントが寄せられました。それを紹介致します。

61期 小島強さんについて ～「私の消防見聞体験記」を読んで～

事務局 25期 まえだ なおと 前田 直人

突然の連絡

2021年8月18日 私の携帯電話とPCに突然61期小島強さんから連絡がありました。メールは大人びた文章でした。

私が感じていた小島さんの印象は、母校の卒業

式に参列していた私に消防署に知っている人いないかと突然親しげに気楽に尋ねられた事でした。又、在学中にも関わらず「北辰会に入りたい」と何度も言って来られました。何だ！この子は。多少、足に障害を持っておられる事は分かっていました。軽い知的障害があるのかなという認識でした。この本を読んで、小島さんは先天性脳性小児麻痺の後遺症で、身体障害五級・知的障害B2の2つの障害をもっておられることを知り



61期 小島強さん

ました。

最後の出会いは彼の卒業近くであったと思います。私が「消防署に就職出来ますか」と尋ねると、消防署に入る為に「障害者枠」を作りたいと言っておられました。その時に携帯電話とメールアドレスを交換しました。ハンドルネームが「ポチ」！ 消防マニアなのに何で消防に関わるものではないのかと疑問に思いました。

彼の卒業後、初期の間は北辰会報が届いていたと思いますが、北辰会も会報受取者を整理する事となり、その段階で会報も届かなくなりました。私の中で彼の存在は記憶に残る人になっていました。最近、彼はインターネットや周りの人から北辰会の情報を掴んでいたと思われます。私へ連絡が来たのでした。

消防への強い関心と知識、著名人と消防行事へのアプローチ

(興味のあることはトコトン追求)

本には彼の幼少期から20歳過ぎまでの生活と、消防との関わりと学校生活、就職活動について書かれています。無論、北野高校定時制在学中の記述もあります。ほぼ一気に読むことが出来ました。

彼は文章を書くこと、発表することが好きであると文中で言っていました。私には想像出来なかった事です。かれの発表は全て「消防」のようでした。

この本を読んだ一番の感想は、物心の付いた頃より彼は自分の好きな消防を中心に消防署長、消防局長、磯村大阪市長などの著名人各氏の懷に飛び込む事、かれがそれらの人に面会を求める事に周りの人は多少手を焼いていた様子が書かれています。小島さんらしいと思いました。

また、自転車で東大阪市三島の大阪市消防学校へ「青少年消防技術公開講座」の受講のため、多少

不自由な身体で、自転車を漕ぎ参加しています。15kmを2時間半位かかっているでしょう。前日は興奮して寝られなかったらしい。また、初日に体調を崩し実技にあまり参加出来なかったらしいです。など書かれています。これら無論消防に関する卓越した知識と情熱は常人を遥かに越えています。だからそれらに人は小島さんの存在が胸に響き交流が出来たのだと思います。

卒業後1年で書かれた!!

彼はスラスラと白紙に文章が書けるようです。好きなことへの執着、その記憶が周りの人より深いようです。この本も20歳過ぎに書かれています。各エッセーも正確のようです。昔の小島さん知っている私には信じられない事でした。

これらは彼の担任であった山上俊夫先生の寄稿文により知ることが出来ます。先生は小島さんの人間像を正確に把握し指導された様子を伺い知ることが出来ます。また、生徒自治会副会長の福田由美さんの文には優しい気遣いで心温まりました。

保護される立場から自立（自律）へ、消防ファンから卒業へ ～あとがきから

(感謝の念で一杯)

そして特筆すべきは全ての文章が感謝の念で「お礼申し上げます」と綴られていることです。更に、『身体障害者にはそれぞれに「使命」があり、「その人」にしか生み出すことのできない力が与えられている』と述べられていることです。この信念を持って身体障害者を対象とした消防採用枠の創設を希望されています。

あとがきで小島さんの決意、皆様へのメッセージを読み感銘を受けました。

彼は平成15年4月から、大阪市民局に障害者枠の職員として就職して働き始め、大阪府に障害者枠での職員を経て、2014年から障害者福祉サービス事業で働かれています。現在、個人一人の住居で生活されています。

彼の消防熱は保育園時代の消防訓練、それからの消防署の訪問と優しい職員の対応に消防への火が付いたようです。あとがきで彼は平成15(2003)年3月7日消防記念日に「消防ファン」を卒業と記述しています。その年の4月1日に大阪



小島 強 著
「私の消防見聞体験記」
B6版 171頁

市に就職し、同年9月20日に本が出版されました。

その後、現在迄の18年間彼には色々な出来事があったと思いますが、山上先生、福田さん、御本のあとがきに沿った歩みがあったと思います。健常者と障害者が共に助け合い、認め合う社会を作り上げることが大事だと訴えられています。その運動に大きく関わる能力と持続性があると信じています。就職してから現在までの18年間の奮闘記が待たれます。

27期 田中久仁彦様ブログ 【わんこと認知症妻との楽笑人生】の紹介

27期 あだち 安達 せいじ 清治

27期に素晴らしい人が居られます。

田中久仁彦君といます。

以前に彼に同期会案内を送ったところ、認知症の奥様が居られて介護（現在の介護度5）が大変なので同期会には参加できない旨の返事を戴



27期 田中久仁彦さん夫婦

いておりました。お返事の中に田中君のブログの紹介が有りました。

タイトルは【わんこと認知症妻との楽笑人生】70代夫婦二人暮らし認知症妻に恩返し中、わんこ達にも助けられながら趣味悠々、楽笑人生と笑って暮らせるよう頑張っていると言う内容です。

<http://howdy1002.blog60.fc2.com/blog-category-9.html>

一時ブログの書き込みが中断されていたのですが、今は再開されています。

認知症の奥様に、ここまで優しく世話が出来る

モノかと、そして大変な中で自分の趣味も楽しまれているまさに楽笑人生です。

10月17日、何気にテレビをつけましたら、田中君の息子さんが読売テレビ日曜10時25分【グッと地球便】に出演。親から独立して世界各国で活躍する我が子の様子と、遠く離れた子に思い出の物を届ける番組です。

予告は、1633912695046 1 - YouTubeです。

長野県軽井沢、日本を代表する避暑地で「ベアドッグハンドラー」として奮闘する田中順平さん。そして兵庫県の両親からの心の温まる物を息子さんにプレゼントする内容です。詳しいドラマは、下に記しました放送記録を読まれてのお楽しみとします。家族の絆っていいモノですね。

是非とも田中君のブログ【わんこと認知症妻との楽笑人生】と【グッと地球便】過去の放送記録 <https://www.ytv.co.jp/chikyubin/oa/article20211017.html>を宜しければ見て下さい。

最近、読んで勇気・元気を もらった本「白秋期」

26期 おかだ 岡田 みのり 美乃利

最近、読んだ本のなかで 五木寛之著の「白秋期」が私の考えに大きな影響を与えた。

この「白秋期」、かなり多くの方々が既に読まれた方が、おいでかと思いま

す。それらの方は時間のかかなりの浪費かと思いますが、私の蛇足の文に付き合ってください。

親鸞聖人は1173年4月産れ、没は、1263年1月で89歳迄の人生でした。親鸞は自伝的な記述をした著書が少なく、もしくは現存しないため、その生涯については不明確な事柄が多い。

私のような人物が人の人生、しかも親鸞聖人を語ろうなんて、笑止千万、超生意気なことをいうつもりは、サラサラないことは当然です。

五木さんは『「白秋期」』のなかで、冒頭次のよ



うに述べられています。

「『^{アクメ}黄金期』は人生の後半に訪れる」アクメという言葉があります。生物の進化の頂点をしめす言葉らしい。昔、私は、恥ずかしながら官能小説の用語かと思っていました。最近になって知ったのですが、このアクメは『全盛』とか『最良の時期』とか『花の盛りのころ』とか、そんなギリシアのことばを語源とするそうです。要するに、クライマックスとか『黄金期』ということらしい。黄金期を自然の営みに転ずれば、実りと収穫の季節の秋、すなわち『白秋期』と考えてもいいでしょう。人間の年にすれば、だいたい50歳前後だろうと、これまで思っていました。「人生五十年」というのが、常識の時代だったのです。しかし、最新の生命科学の研究によれば、人間の自然寿命はどうやら百年ぐらいあって、しかも医学や医療の進歩で、多くの人々が、その自然寿命を全うする時代になるということです。

百歳といえば、私（五木さん）の子供の頃は仙人のような存在で、治外法権の世界と考えてきました。それが百歳人生が常識となる日が、目前に迫っているという。こうなると当然、人生の黄金期の考え方にも、変更を求められることになります。

私はこれからの人生の黄金期、すなわち『白秋期』は急激に引き上げられて六十代、七十代になっていくと考えるようになりました。六十、七十といえば、老人というのがこれまでの常識です。それが、昨今のこの年代の人々の行動様式を観察していると、この年代こそが、アクメと化しているとさえ思うようになりました。

たとえば親鸞は八十歳を超えてから、数多の著作や、和讃を残しました。この活動期は、親鸞にとってのアクメ、黄金期であったと私は考えます。



(中 略)

年齢でなく『季節』を生きる人生観

中国には古来より

青春 朱夏 白秋 玄冬

と、人間の一生を自然の移りかわりになぞらえ、人生を四つに区分する考え方があります。

「青春」というのは、言うまでもなく若々しい成長期。恋愛憧憬期

「朱夏」は真っ赤な夏。社会に出て、働き、結婚して家庭を築く。子供を教育し、そして社会的貢献を果たす。人間の活動期、フル回転の季節です。人生五十年時代は、この季節が黄金期と考えられていました。

その次の季節が白秋です。「白秋」はフル回転からシフト・ダウンし人生のひととおりの役割を果たしたあと、生々しい生存競争の世界から離れ、自由の身となり、秋空のようにシーンと澄み切った静かな境地に暮らす時期。同時にこれまでの生き方をリセットし、新境地で活動する時期と考えられます。

以上が、五木寛之氏の「白秋期」の冒頭部分です。

私が感動したのは、親鸞が誕生し物心付いたころは、世は乱世（治承の乱、寿永の乱）や数万人が餓死した養和の飢饉、平家全盛の時期で、源氏の血を引く親鸞は暗殺の危機に遭遇するなど、正に乱世の真ただ中の時代でした。親鸞32歳のとき、専修念仏の停止（ちょうじ）が後鳥羽上皇の怒りに触れ、親鸞以外4名の死罪、法然ならびに親鸞を含む・7名の弟子が流罪に処せられる。この時、法然・親鸞らは僧籍を剥奪される。親鸞は越後国国府（現・新潟県上越市）に配流へ。1211年親鸞、赦免。1236年、親鸞62～63歳ごろに帰京。

1247年75歳頃、補足・改定を続けてきた「教行信証」完成。

1248年、「浄土和讃」と「高僧和讃」を撰述
1258年（親鸞85歳）まで多数の本の撰述。

1262年（89歳）入滅

親鸞を主人公とした歴史小説は、みなさん良くご存知のように多く出されている。但し、親鸞自身は生涯にわたり自伝的な記述をした著書が少なく不明確な事柄が多い。その限られた行

実に沿って作られているため、内容の大部分がフィクションであるといわれている。

私はそうであったとしても親鸞の「最盛期」は75歳～85歳頃までではと考える。そうであるなら、「私はもう年齢が…」という言葉は禁句ではなかろうか。

そう思い込むことによって自分を許す、ということにならないだろうか、と最近考える。気が付くのは遅かったのかも。しかしまだ89歳まで私は10年以上あるのでは、と。

歴史上の偉大な親鸞と凡才な私を比較しよう等と毛頭思わないが、気概だけは、その足元に数ミリでも数センチでも近づきたいと考える昨今です。

歴史探訪 御願塚古墳(その1) ～御願塚村に官軍長州兵が入って来た～

26期 かねだ よしはる
兼田 吉治

はじめに

最初に、なぜこのようなローカルなテーマについて書くことになったのか、その経緯について触れておきたいと思います。

2021年4月からNHKBSプレミアムでBS時代劇「小吉の女房2」が放映された。その第2話(4月9日放送)の中で、主人公“お信”の夫である勝小吉(勝海舟の父)が、世話になっている地主の岡野孫一郎の借金を返すため、岡野家の知行地(支配地)のひとつである御願塚村(兵庫県伊丹市)へ出向き、御願塚村の代官 山田新右衛門の屋敷に1ヶ月ほど逗留して、いろんな策を講じながら400両を確保する話があった。小吉は村人が金を出し渋っているので「金策ができなければ面目がない。今晚切腹するから亡骸を倅(勝海舟)に渡してくれ」と脅して金を出させます。このドラマは全国放送されたので見られた方も多いと思います。



このドラマを見られた前田事務局長が、「御願塚村と言えば18期の佐藤寅夫さん(北辰会会計監査)が御願塚古墳の保存のためにボランティアで奮闘されている地区のことや!」、「江戸時代から存在する凄いところやな〜!」、「誰か北辰会に向けて“御願塚古墳と御願塚村”について原稿を書いてくれんかな〜」と佐藤寅夫さんに相談された結果、佐藤さんから「私はよう書かん。同じ御願塚の近くに住む兼田事務局次長が居るやないか!」と言うことになり私にお鉢が回ってきた次第です。

御願塚古墳について調べてみると、5世紀後半に造られたほぼ造営当時の原型を留めている帆立貝式古墳であることや、地名の由来、古墳保存会の活動、江戸時代の御願塚村の様子など興味ある事柄が多くあることが分かって来た。

そこで、今回は先の「小吉の女房」の背景となっている江戸時代の御願塚村の様子や、それに続く幕末の御願塚村にまつわる出来事について書いてみたいと思う。更に、御願塚古墳があるこの地域は万葉の昔から“ゐなの”と呼ばれ和歌に詠まれました。次回は“ゐなの”の文化について触れてみたいと思います。

「小吉の女房」時代の御願塚村の支配

先の「小吉の女房」は勝小吉の著書【夢酔独言】(むすいどくげん:無頼の生涯を独特の語り口で晩年(1843年)に綴った自伝)を元に描かれており、小吉は俗称で勝左衛門太郎惟寅(これとら)(号夢酔)といい、勝海舟の父親で41石取の旗本である。幕末の岡野家9代目 岡野融政(おかのとおまさ)(岡野孫一郎融政)は、江戸城下になる所入江町の拝領地(540坪)に屋敷を構え1412石を知行した旗本で、相模(高座郡淵野辺村)と摂津(川辺郡御願塚村)に知行所を持っていた。しかし、岡野家も御書院番から小普請(こぶしん)になっていた。この小普請と言うのは無役無勤の者で勝家も同じであった。勝小吉は無役だったため経済的に困窮し、江戸の岡野邸の敷地内に住居を得て、勝小吉と妻・お信、子の勝海舟(勝麟太郎)の一家は1831年～1841年12月まで、約10年間、世話になっていた。勝麟太郎は、9歳～19歳頃までの青春時代を岡野家の屋敷にて過ごし勉学に励んだことになる。

しかし、この岡野孫一郎は酒色にうつつを抜かす道楽者で、とうとう無役になってしまった。更に、多額の借金を抱えたため、岡野家に奉公していた大川丈助から、借金339両を返済しないと、幕府の評定所へ訴えると脅される。この岡野家断絶の危機に、借金の返済を勝小吉が手伝ったのが知行地である御願塚村へ出向いての400両の確保だった。1838年11月～12月のことである。先に記載した、小吉が御願塚村に滞在し金を出させるためにあの手この手をつくす話は「夢酔独言」に多くのページを割いて書かれている。例えば、竹槍百姓に旅宿を取り囲まれる話や、大阪の町奉行堀伊賀守が知り合いで仲良しだと偽って村人の信用を得る話。村の悪輩を連れて能勢妙見へ参詣に出た小吉が雨降りを予言して悪輩達をへこませる話。村人を誘って伊丹に飲みに行く話など等。当時の御願塚村人の様子も垣間見ることができるが、ここでは省く。

村の支配に関しては、当時の御願塚村には旗本の領地が多く配置されていた。それは「相給(あいきゅう)村落」と呼ばれるもので、複数の領主でひとつの村を支配するという形であった。領主ごとに土地も人も分割されていて、それぞれに村役人が置かれており、年貢を取り立てていた。

御願塚村に官軍長州兵が入って来た

「小吉の女房」に描かれた時代から30年後の慶応4年1月3日～6日(1868年1月27日～30日)に戊辰戦争の初戦となる鳥羽・伏見の戦いが行われた。朝廷では1月4日に仁和寺宮嘉彰親王を征討大將軍に任命し、錦の御旗(注1)と節刀(注2)を与え、新政府軍を官軍として任じた。鳥羽伏見の戦いに敗れた旧幕府軍は、朝廷に刃向かう賊徒となった。新政府は1月10日に慶喜追討令(写真1)を出すとともに、「農商布告」も出し、幕府領の没収を宣言した。幕府領である天領のみならず、旗本の領地も没収の対象となった。この領地没収を実行するために伊丹地方など西摂諸郡には長州兵が入ってきた。慶応4年1月15、16日には御願塚村に長州兵が来て大阪参謀方取次役所が置かれた。御願塚村は旗本相給居り組みであり、領地没収の対象地であった。長州兵は村々の郷蔵を封印し、村方には郷蔵の残米の

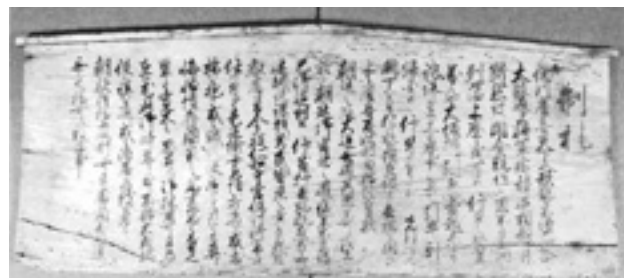


写真1 徳川慶喜追討令の制札(絲海第36号より)

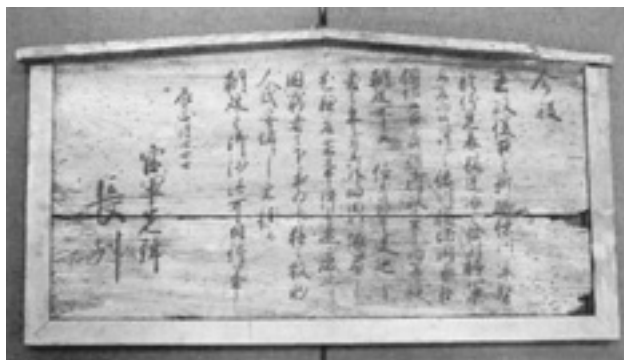


写真2 官軍先鋒長州の制札(絲海第36号より)

保管を命じている。伊丹市博物館にはこれに関わる「辰正月廿四日」付けの「官軍先鋒長州」の制札(注3)(写真2)が保管されているそうである。その制札には「徳川領地同家臣領地被召上候」とあって、天領のみならず旗本領も没収の対象になることが書かれている。長州兵が御願塚村に来たのは鳥羽・伏見の戦いからわずか10日後の事である。江戸城無血開城の3ヶ月前の事で、「官軍先鋒長州」と書き記したことがよく理解できる。尚、2つの制札が伊丹の何処に立てられたかは定かでない。

御願塚村の北隣地である伊丹村は近衛家の領地(716石)であった。近衛家は公家5摂家(摂政関白になることができる家柄)のひとつであったが、王政復古(注4)によって摂家の名称がなくなったことから、惣宿老(注5)は近衛家が「左大臣様」と呼称されるようになったことを町中に触れたという。王政復古の号令の中で世の中が大きく変化してゆく一面が御願塚村や伊丹村にも訪れていたのである。

折しも新型コロナウイルスによるパンデミックの最中である。日本中、いや世界中がCovid-19に恐れ慄いた生活は、50年後、100年後に語り継がれる事でしょう。私達は48年前のオイルショックや13年前のリーマンショックと、それに続く経済的打撃も経験しました。歴史に残る重大な出来事は私達のすぐ隣で起きていて、

生活の中に訪れています。教訓にしたいものです。

終わりに

伊丹南部の御願塚地区に関する幕末の出来事を記しました。歴史好きで調べて書きましたが、何分素人であり史実にどこまで忠実であるかは自信がありません。しかし、私達北辰会員が住む畿内には歴史的に古い町が多く、歴史的な出来事、もの、文化が沢山あります。会員諸氏に身近な出来事として捉えて頂き、“近くの歴史や民話、文化などを、気軽に北辰会に寄稿して頂くことが出来たらいいな”と思い執筆した次第です。

新型コロナウイルス感染拡大による緊急事態宣言下で外出自粛の毎日です。気鬱にならないよう外に目を向けて元気に明るく過ごしましょう。

- (注1) 錦の御旗 (にしきのみはた) : 天皇 (朝廷) の軍 (官軍) の旗。略称錦旗 (きんき)。朝敵討伐の証として、天皇から官軍の大將に与える慣習がある。
- (注2) 節刀 (せつとう) : 日本の歴史において、天皇が出征する将軍または遣唐使の大使に持たせた、任命の印としての刀。標の太刀 (しるしのたち)。任務を終了すると天皇に返還された。
- (注3) 制札 : 古代から明治時代初期にかけて行われた法令 (一般法、基本法) を板面に記して往来などに掲示して民衆に周知させる方法を高札 (こうさつ) と呼び、特定の相手や事柄を対象として制定された法令 (特別法) を記した同様の掲示を制札 (せいさつ) と呼ぶ。
- (注4) 王政復古 : 明治維新により武家政治を廃し君主政体に復した政治転換を指す語。江戸幕府第15代将軍・徳川慶喜の大政奉還を受けて、慶応3年12月9日 (1868年1月3日)、明治天皇より「王政復古の大号令」が発せられ、江戸幕府廃止、同時に摂政・関白等の廃止と三職の設置、諸事神武創業のはじめに基づき、至当の公議をつくすことが宣言され、新政府が成立した。
- (注5) 惣宿老 : 伊丹郷町の頂点にいて町政をつかさどるのが惣宿老で、その下に町庄屋、町々の年寄、村々の庄屋・年寄があり、酒造業においては酒造年行司が置かれていた。この惣宿老制は、近衛家が寛文元年 (1661年) 伊丹の領主となってしばらくして、元禄十年 (1697年) に制度化された。

【参考資料】

- [1] 絲海第36号 伊丹市文化財保存協会 平成23年6月25日発行
- [2] Wikipedia 「小吉の女房」、「勝小吉」、「岡野孫一郎」、「夢酔独言」、「鳥羽・伏見の戦い」、他
- [3] マンガで読める「夢酔独言」 第113話～第122話
- [4] 小西酒造 FUJIYAMA.NET 伊丹歴史探訪 第12章 伊丹酒造業と小西家 -古文書からの考察-

歴史探訪 御願塚古墳(その2) ～古墳から“ゐなの”の文化を考える～

26期 かねだ よしはる 兼田 吉治

私は昭和37年 (1962年) に御願塚古墳を訪ねたことがある。当時の御願塚古墳はうっそうと茂る藪に囲まれていて、人もめったに訪れない寂しい場所であった。当時、私が住む独身寮が御願塚古墳から西南西に600mの位置にあり、北野高校に通う最寄り駅も阪急電車稲野駅で、古墳は駅から北西150mの位置にあった。そんなに近くにありながら、その後20年ほど古墳を訪れた記憶は無い。近畿の古墳群はいつでも同じで、当時古墳への市民の関心は薄く、古墳の周辺はのどかな農地などが多かった。古墳の周囲環境に大きな変化が生じるのは、戦後の高度経済成長期と呼ばれる昭和40年代後半から50年代にかけてである。周辺は宅地化が進み町の中古墳となっていた。御願塚古墳も同じであった。

御願塚古墳の概要

御願塚古墳は5世紀後半の帆立貝式前方後円墳で、墳丘の周囲には水をたたえた周濠が巡っており、墳丘だけで全長52m、周囲の濠の幅は8～11mの規模を持つ。古墳の頂部には延宝9年 (1681年) 創建の孝徳天皇を祭神とする南神社が祀られていて、この神社が祀られたことにより古墳が破壊から守られたとも言われている。墳丘は緑におおわれ、春にはキリシマツツジが、初夏には水辺に菖蒲が美しく花を咲かせる猪名野古墳群を代表する古墳の一つである。



写真1 周濠が巡った御願塚古墳 (先が前方部、手前が後円部)

昭和41年に県指定史跡となり、昭和44年から平成12年まで9次にわたる調査が行われた。その結果、多数の埴輪が出土し、二重周濠であったことや、埴丘北西側に埴輪列で囲まれた「造り出し」と呼ばれる祭祀遺構



御願塚古墳復元図[2]
(矢印が上記写真の撮影方向)

が検出されるなど、学際的研究も進展しているそうである。

御願塚村では長らく孝徳天皇の陵墓であると信じられていて、明治8年に政府の許可を得て地元の人々により古墳の一部が発掘された。その時、地中より石組が現れたが、それ以上の発掘は許可されず被葬者に関する詳細はわかっていない。村民が求めていた陵墓の指定も、既に大坂磯長陵が孝徳天皇陵と比定されていることを理由に却下された。

この史実から、近代天皇制国家を必要とした明治政府が天皇中心の国家体制の一環として陵墓の整備と聖域化を推し進めた流れの中で、新政府の旗本領没収により岡野家など領主4家から解放された御願塚村の人々が、御願塚古墳を通して村の発展を願って行動を起こした様子が推測される。残念ながらその願いは叶わなかったようである。

被葬者は誰？

古墳は、一定の時代範囲のなかで共通の葬送儀礼様式と墳墓様式に基づいて造られている。そのため、統一的に格差づけすることが可能で、形と規模を基準に、顕著な階層的秩序を形成していると言われる。形は前方後円墳、前方後方墳、円墳、方墳が基本で、古墳の形と規模は被葬者の勢力内における政治的身分を反映していると考えられている。

御願塚古墳の被葬者は、その後の研究で猪名部（いなべ）と呼ばれる渡来人の首長の墓ではないかと考えられている。では、この猪名部とはどのような人物だったのだろうか？ 日本書紀

なべのまね）と猪名部御田（いなべのみた）の名が出てくる。猪名部真根は雄略天皇の時代（457～479年）の木工とある。猪名部は天皇や氏族に隷属する職業部のひとつで、土木技術を提供する工匠集団であった。その工匠集団の長には新羅系の渡来人が任命されていた。4世紀末ごろ、武庫の港に繋がれていた新羅の船が火事になり、日本の船も類焼したので新羅に賠償を請求したところ、有能な工匠が新羅王より貢進され、造船や土木・建築工事にたずさわっていたという。真根は『日本書紀』雄略13年（469年）の記事に名工とうたわれている。この猪名部一族は、伊丹のあたり、猪名川の流域に住んでいたと言われており、日本書紀によるとこの地は朝鮮半島との交渉の拠点であったということで、猪名川流域は武庫の港とともに非常に重要な地域であったと推測されている。御願塚古墳は、この猪名部一族の長の墳墓なのであろうか？

その他日本書紀には、雄略天皇の策略で猪名部真根が采女の裸相撲を見させられて刃物の腕を狂わせる話や、雄略天皇が猪名部御田に采女の事で疑いを持ち処分しようとする話など、興味湧く説話がいくつかあり、いずれも腕のたつ工人として記されている。

御願塚の名前の由来

元は周囲に満塚（みちづか）・掛塚（かかりづか）・温塚（ぬくめづか）・破塚（やぶれづか）の4基が陪塚として築かれており、この4基と本体の古墳を合わせて五ヶ塚（ごかつか）と呼ばれていたものが転じて「御願塚」になったとされている。4基の陪塚はいずれも宅地造成で破壊され、跡地には位置を示す石碑が建てられている。



写真2 御願塚景観形成住宅 伊丹市指定 簗邸(やのてい)

ちなみに、御願塚古墳から南に1.5kmの位置にある阪急電車塚口駅周辺は「塚口」と呼ばれているが、御願塚古墳から塚口までの周辺には前方後円墳の池田山古墳（塚口本町6丁目）、御園古墳（塚口本町8丁目）、大塚山古墳（南清水）、伊居太古墳（下坂部4丁目）、南清水古墳（南清水）等からなる塚口古墳群が点在しており、古墳を背後にひかえていることに由来して「塚口」という地名になったと考えられている。

江戸時代を彷彿とさせる御願塚景観住宅

御願塚地区は昭和47年に中心部を山陽新幹線が通ったため南北に分断され、旧御願塚村の歴史的景観も維持されなくなった。そのような中でわずかに江戸時代を彷彿とさせる歴史的景観が残っている。伊丹市では歴史的価値を持つ建築物等を「都市景観形成建築物」として現在15



写真3 御願塚景観形成住宅 田中邸の前で 筆者

件を指定しており、この中の3件が御願塚地区の住宅である。写真2は市指定第9号の篋邸で、市資料には「御願塚の歴史的集落にあって天保9年（1838年）に建てられた家屋で、母屋や、これを囲む蔵・門・塀・垣・庭木などが、伝統的農家の屋敷構えを見せ、付近の須佐男神社の緑と調和した景観を形成している」とある。写真3は市指定第28号の田中邸で、「母屋を囲む長屋門と塀、そして納屋などが伝統的な農家の屋敷構えを見せ、前面の道すじ植栽や水路と一体となった潤いある表情は、周辺の須佐男神社などととも御願塚の歴史的集落景



写真4 歴史を偲ばせる静かな町屋（御願塚3丁目）

観を形成する重要な要素となっている」と説明されている。須佐男神社と一体となった歴史的集落景観は他に写真4など複数戸が見られる。

有馬山 めなのささ原 風吹けば

御願塚古墳はJR猪名寺駅から西北西に750mの位置にある。御願塚古墳があるこの辺りは万葉の昔から“めなの”【猪名野（いな）】と呼ばれていた。

“有馬山 めなのささ原 風吹けば いでそよ人を 忘れやはする”

百人一首58番、紫式部の娘である大式三位（だいにのさんみ）が詠んだ歌である。逢瀬が途絶えがちになった男が、「あなたが心変わりしたのではないかと気がかりです」などと言ってよこしたのに対して、「有馬山にほど近い猪名の笹原に風が吹くと、笹の葉がそよそよと音をたてるように、さあ、そうですよ、あなたのことを忘れることがありましようか、いや、けっして忘れません。」と詠んで、永く途絶えていたくせに「よくもそんなことが言えますこと」というような気持ちで返した歌だそうである。和歌には“めなの”の地名は「猪名の伏原」「猪名山」「猪名の湊」という形でも多く詠まれた。

法隆寺と同じ規模の古代寺・猪名寺廃寺と伊丹廃寺

摂津国の歌枕として「猪名の笹原」と呼ばれたこの地は古代から栄えていた。先の和歌は平安時代であるが、更に遡ること350年。飛鳥時代には法隆寺と同じ伽藍配置を持つ古代寺院が2寺あった。御願塚古墳から東に1kmの猪名寺廃寺と、北に3.2kmにある伊丹廃寺である。東に金堂、西に五重塔、これらを回廊が囲む伽藍配置が法隆寺とほぼ同等であった。

猪名寺廃寺では時の権力者との繋がりをしめす“川原寺式軒丸瓦”や、“高句麗系軒丸瓦”、鴟尾（しび）等が発掘調査で見出されており、柱座と舍利孔が見られる塔心礎は廃寺跡に残されている。更に、猪名寺廃寺の公園名にもなっている旧地名・猪名寺字佐璞丘（さぼくがおか）の「佐璞」とは唐の官制で左大臣のことをさす「左僕射〔さぼくや〕」に通じるとされる等、猪名川流域に飛鳥（ヤマト王権）とネットワークをもつ氏族、さらに新羅や百済の寺院についても情

報をもつ渡来系氏族・集団が居たこと等が想定されている。

伊丹廃寺で出土した遺物のなかには、五重塔の頂きを飾る水煙や九輪、風鐸などの金具類や、金堂の内壁を飾った塼仏（せんぶつ）など貴重なものが多く、昭和52年に出土遺物1,027点が一括資料として県指定文化財に指定されている。出土した瓦には、菊花様単弁花文（きっかようたんべんかもん）軒丸瓦や、波状文縁複弁（はじょうもんえんふくべん）花文軒丸瓦などがあり貴重な資料となっている。礎石は早くに遺跡から持ち出され、あちこちの庭園の庭石に使われたりしていて、臂岡天満宮（伊丹市鋳物師1丁目）境内にある複数の巨石や伊丹郷町館内旧石橋家住宅北側の沓脱ぎ石もそのひとつとされている。

猪名寺廃寺も伊丹廃寺も、伽藍は天正6年（1577年）の荒木村重と織田信長の戦乱により焼失し、廃寺になったと推定されている。戦はい

つの時代も文化を破壊する。

見てきたように、古くから“あなの”と呼ばれた御願塚古墳があるこの辺りは、5世紀後半の古墳時代から飛鳥時代、そして平安時代へと、中央の文化と繋がる重要な地として栄えて来たことを、古墳を通じて窺い知ることができるのである。

参考資料

- [1] Wikipedia：御願塚古墳、猪名部真根、猪名部御田、雄略天皇、猪名寺廃寺、伊丹廃寺、他
- [2] 伊丹市ホームページ：御願塚古墳、都市景観形成建築物
- [3] 小西酒造 FUJIYAMA.NET 伊丹歴史探訪 第一章 伊丹歴史探訪へのいざない
- [4] 寺岡 洋：播磨の古代寺院と造寺・知識集団 西摂の古代寺院1 -猪名寺廃寺-
- [5] 伊藤ていじ：日本の工匠
- [6] 兵庫県立考古博物館 館長 和田晴吾：日本の古墳の特徴とその世界観
- [7] 尼崎市歴史博物館：Web版 図説 尼崎の歴史,第1節, 第2節 コラム
- [8] 御願塚ふるさとマップ 御願塚史跡保存会編

皆様からのたより(2)

70歳から初めての絵画に出会って

23期 かわの川野 たかし卓志

いつの間にか喜寿を迎えた正真正銘のオジンでございます。

いつも北辰会の皆様方それぞれの投稿を拝見し、色んな人生を積み重ねておられるなあと若かりし頃の働きながら通った日々を懐かしく思い出しております。

全く絵画には無知の小生が70才を過ぎてから絵画の手解きを得て、趣味の一つとして楽しい時間を過ごしている今日この頃を恥ずかしながら紹介いたします。



退職後はハイキング、ウォーキング、囲碁、音楽鑑賞などやっておりましたが、体にも変調を感じて来まして、新しいことで何かないかと思っていた時に、住んでいる松原市の広報で「初心者絵画教室」を見たのでした。

小旅行で簡単なスケッチでも描けたらと申し込みをした所、抽選に当たり受講する事になりました。週1回・2時間で10回の2カ月半の期間でした。

最初は何も分らないまま、鉛筆と消しゴム、ボックスを持参し、筒・球・野菜・花…。1ヶ月ほどのち、絵具でキュウリ、ナス、玉ねぎや花一輪などの色付けする事になりました。

デッサンをするだけでも形が出来上がらず、色付けするのも色彩が上手く出せないまま、少しずつ仕上げていくのですが、それが段々楽しくなってきたのです。初心者用の絵画の本を買って来て、画家の絵を真似する事もいいと教わり、やったりしました。

教室を終了してから2・3か月後から景色を描いて見たいと思って、カレンダーの写真や本の絶景画像を見つれたりして、描き始めました。



現地の写真（ホームページから）



2018年1月 川野さんから受け取った画像

その折に、同じ先生の講座で1ヶ月に1度2時間OBの集まりに参加、描いた絵をチェックして貰っている内に取敢えず家の壁に飾れる様になりました。

それから毎月の例会となり、今では早や5年が過ぎ、自分の趣味の1つとして楽しい時間を過ごしているのが信じられません。

特にコロナ禍ではステイホームも気にせず絵画をすることが出来、やってて良かったと思っています。

これまでに、他の「趣味の会」の人や趣味はないと言われる方に絵画を勧めています。毎年春・秋の2回松原市の同教室の募集がある事を伝えて、何人かの方が入会して、小生同様楽しんでおられます。

これから先は100才までに何処かの美術展に1枚だけ出展出来ればと夢を見ている次第です。

2021年8月

23期 畑地 豊様 からの喜びの声

北辰会の益々繁栄のこと、身内乍ら喜ばしい限りです。みんなで喜びを分かち合いたいものと思います。本日は大安のもと天候にも恵まれて、皆様ご多用のところ懐かしの学び舎母校にご参集下さいまして、誠にありがとうございました。お疲れ様でした。

23期/川野卓志さんの”秘蔵っ子”である肉筆絵画をご寄贈頂きました。セレモニーも和やかな会話が飛び交う中、無事に終了しました。北辰会、事務局の皆様から23期/川野さんの作品を「記念室に飾りたい」と相談を受けたとき、私は幹事の一員としてどれだけ嬉しかったことでしょうか。そして「初回のお願い3年越し」は再び現れることなく、このことに当の川野さんも即ご快諾下さいました。二重の喜びで安堵し、ハッピーを感じました。23期同期のみんなも名誉なことと喜んでくれると思います。

ホームページでこのことの紹介がなされるとのこと、待ちどおしく感じられます。



寄贈セレモニー参加者:左から 畑地常任幹事(23期)、川野様(23期)、前田事務局長(25期)、小河原副会長(26期)、兼田事務局次長(26期)
(2022年3月30日)

大きな目標に向かって… やったあ！

29期 ^{たけもと}竹本 ^{はるお}治男(大鶴)

10月18日(月)待ちに待った発表日です。分厚い速達郵便…万歳!うれしい嬉しい「第8回日展(入選)」通知。

青春時代から「好きなこと・自分にできること・人に喜んでもらえること」をモットーに書道に心を燃やしてやっ

てきました。北野定時制時代から日本の総合美術展として権威のある「日本美術展覧会(日展)」に入選したいと頑張ってきたが、落選、落選…の数十年…あきらめずこつこつ筆を持ち続けて精進してきました。学友・先輩や恩師、書道の師匠・仲間・お弟子さん達…いろいろな出会いの人たちにお世話になり励ましていただき、うれしいご報告ができたことを大変うれしく思っています。

思えば2011年(平成23年)第43回日展(書)64歳で初入選してから2018年(平成30年)改組新第5回日展(書)71歳まで8年連続入選させていただきましたが作品表現のはばを広げたいと「縦書き作品から横書き作品にチャレンジ」しました。昨年、一昨年と落選…今年こそはと初心にかえて作品締め切り前日まで書き続けました。「積み重ね、積み重ねても、また積み重ね」と思いつつ…コロナ禍の中、昨年同様今回も開会式のテープカットや入選祝賀懇親会などのイベントは中止になりましたが、10月28日(木)六本木の国立新美術館で「日展」を鑑賞してきました。感動と感激を心に秘め、次への創作活動に精進したいと思っています。

今回の私の作品は宋の時代の「米ふつ」の書風を



入賞作品：題名【江行】

(題 名)

江 行 こう こう (明・呉安國) ごあんこく

江 樹 浮 疑 没 こうじゅう ぼつ うたが
江樹浮かんで没するかと疑う

江 雲 散 復 凝 こううんさん またこお
江雲散じて復凝る

疎 燈 明 極 浦 そとうきよく ほ あき
疎燈極浦に明らかに

處 處 有 魚 罾 しょしょぎょそう あ
处处魚罾有り

(語 意)

船から眺めていると川のほとりの樹木は浮き沈みし、江上の雲は流れてまたとどまる。遠くの浦にはまばらに漁火がつき、ところどころに四つ手網が見える。

基調に余白美と強い線条をモットーに170cm×70cmの画仙紙に20字の漢詩を横型式に展開しました。いかに生命力を注ぎ込めるか挑戦してみたく作成しました。

来年は後期高齢者(75歳)になりますが北野高校定時制時代に心に誓った大きな目標に向かってチャレンジし続けたいと思っています。

今回の「日展」は六本木の国立新美術館をスタートに京都・名古屋・大阪・安曇野・金沢と巡回します。大阪展は来年2月26日(土)～3月21日(月)天王寺の大阪市立美術館で開催されます。愚作ですが鑑賞していただければ幸いです。

2021年(令和3年)11月10日 記



2021年10月28日 国立新美術館にて

書道を通じて人生 いきいきと!

29期 たけもと はるお 竹本 治男(大鶴)

私が住んでいます桜井市の高齢者福祉センター「竜吟荘」で、お年寄りの人に書道を教えて今年で20年になります。現在、最高齢95歳の方を筆頭にお元気で楽しく学習しています。

新型コロナウイルス感染拡大により、奈良県文化会館で開催される「全国シルバー書道展」も中止になり、発表の場がなくなりがっかりですが、何とか発表の場を考え、「竜吟荘」のロビーをお借りして1ヶ月間、展示することになりました。私の日展入選作品も展示させてい

いただきました。近所の人からうれしい声をたくさんいただき、ご好評を得てうれしく思っています。平均年齢83歳とは思えない立派な作品ばかりです。

「教えることは教えられることである」と言われていますが大変勉強になり皆さんから元気をいただいています。

有名な哲学者、鈴木大拙先生が90歳になられたおり、ご自宅の130段の階段を上がって帰宅される様子を見た人が「大変でしょう」と聞かれると「一步一步上がれば何でもないぞ。一步一步努力すればいつの間にか上がっている」と話されたという逸話があります。私も努力を積み重ね精進する覚悟です。

2021年(令和3年)9月1日記す

23期 短信 (2022年初頭吉日)

23期常任幹事 はたし ゆたか
畑地 豊

寅年を迎えました。良い年になって欲しいと願うばかりですが、巷は世界中「コロナ禍」で荒れ狂っている様相で、相変わらず生活は落ち着きません。心して乗り切りたいと思います。

年末から年始にかけて期友といくつかの交信がありましたので、この誌面をお借りしてご披露させて頂きます。

あらき やすひさ
荒木康久さん〈前橋市在住〉

①昨年11月頃から「自転車/放浪の旅」を開始。住まいの前橋市をスタートして今回は九州方面を目指し西に下ります。本人は自転車の旅は何度も実践中です。何の気なしに電話を入れたところ「今静岡を通過中」ということで計画が判明したのです。「大阪を通過するとき会いたいものです」と相談しましたが、

放浪の旅なので日時に制約を受けることは由としないような雰囲気、会える確約はしてもらえませんでした。その後、私も物好きなもので本人の迷惑も考えずに電話を入れます。「只今はお伊勢さんに居る」とのこと。そうするとぼつぼつ大阪か!と、会えるかも知れないと思うと心が躍ります。

数日後に電話が有り「所定の検査入院が近づいたので、中断して自転車を預けて一旦前橋に戻る」とのこと。お伊勢さんから国道42号線を南下して尾鷲、熊野、新宮、白浜、和歌山と紀伊半島を周遊して大阪に着いたようでした。これはチャンス!日時を決めて「新大阪駅」で会うことが出来ました。さすがの彼も私のお願いに不義理をすることを由としなかった様です。

②それから再度大阪から旅を続けることになったようです。突然彼が目にした綺麗な「姫路城」の写真が電波に乗って届きました。

次にまた突然メールで連絡が入りました。「高知県にいます。近々かなりの寒波が到来するとの予報である。寒さ対策をしていないので中断して自転車を預けて一旦前橋に戻る」とのことでした。正月は自宅でゆっくり、のんびりされたかなあと、他人事ながらなんとなくほっとした気持ちになりました。

③年が明けて寅年1月7日、メールで連絡が入る。「旅を続けるため再度高知に来たが、コロナが再び蔓延悪化の様相である。」

一旦今回の旅は中断することを選択した。自転車は運送業者に託して列車で帰宅する」 コロナが落ち着いたころ、それはある日突然に再び彼の元気な姿が何処かの街を疾走しているかも知れない。(完)

ふくしま じろう
福島次郎さん〈大阪、長野に住まいを有する御仁〉

この御仁からも昨年12月中旬に1通の写真付きの“はがき”が舞い込んだ。

今後は大阪、長野の二重生活から長野中心の生活に徐々に移行する模様です。長野県下伊那郡豊丘村と言いましてもピンと来なかったもので、地図を開いて見ました。「JR飯田駅」に比較的近い距離関係に位置します。少し東に移動すると

「JR下平駅」がありますがここが至近なのでしょうか!

「豊丘村役場」のホームページを見てみました。やは



23期 福島次郎さん

り長野ですね『りんご』が名産のようです。同君の話ですと引っ越した早々朝から晩まで『柿の皮を剥いて干し柿づくりをしている』とのことでしたから、柿も良く育つ環境のようです。「リニア中央新幹線」の新駅も飯田市に建設される予定になっています。

開通が待ち遠しいですね!

なかい はるまさ
中井治正さん（兵庫県猪名川町在住）

猪名川町在住とはいえ、大半が大阪市内の娘さんのお家でお孫さん相手に元気に暮らしているという方です。不肖私の娘夫婦が住んで居る町がこの中井さんお住まいと比較的至近な距離関係なのです。私も孫の顔を見たくて時々この町を訪れます。年末のある日のこと近隣を散歩していて意図的に中井さんの自宅前を通過することにしました。滅多にいない彼が自宅前で体操をしているでは有りませんか! チャンス! 近くの「イーオンタウン」のコーヒESHOPで時の経つのも忘れて雑談にふけりました。

23期の「ポンコツ会」の集いを兵庫県篠山市内の「ユートピアささやま」で催行したのが2018年11月でしたから実に3年ぶりの再会でした。

はた とくあき
畑 徳昭さん（兵庫県篠山市在住）

中井治正さんが登場したとなると、忘れてはいけないのがこのお方です。

「中井治正さんにお会いしましたよ!」と報告メールを飛ばしました。

中井さんとは職場も同じで退職後も「OB/集う会」などではちょくちょくお会いすることもあったようです。

畑さんにはこのホームページに2018年2月15日付けで登場してもらいました。今回もメールの交信をしました。

年末に北辰会事務局から「ホームページ」へのアク



23期 畑 徳昭さん

セス数の状況報告がなされた。今回も直近の11月の集計でなんと5000件を突破している。数年前には2000件余りであったことと照らし合わせると、格段の伸びと言っても言い過ぎでは無い。嬉しいの一言である。母校定時制課程が閉課程となって既に12年余り、今や卒業生をつなぐパイプは唯一この「ホームページ」のみと言っても過言では無い。この媒体へのアクセス数が増加の一途を辿っているとはとても嬉しいことではないか!

これを運営推進下さっている事務局関係者の皆様に感謝の気持ちを表するとともに、一刻も早くこのことを皆さんにお知らせさせて頂こうと、23期のメール通信可能の皆さんに電波を飛ばしている。兵庫県篠山市在住の畑さんから「連絡ありがとう」の応答を頂いた。

はた とくあき
北辰会23期 畑 徳昭 様
(畑地です。)

拝啓 本年もよろしくお願い申し上げます。

昨年末のメール配信に対して、「見たよ!」のサインがございましたので喜んで返信させて頂いております。

いつも北辰会の発展のためにご支援を頂きまして、ありがとうございます。ホームページにアクセスして下さることが、私ども事務局としては最高の喜びです。

お変わりございませんか! 年が空けてもコロナがますます猛威を奮っています。私の住む高槻市では、3回目の接種の予約申込みの案内が参りまして、昨日申込みをしてきたところです。(2022.01.21)

昨年暮れに猪名川町で、中井治正くんに遭遇して「イーオン店」の中にある広いスペースで「珈琲」を呑みながら、畑さんのお話やら、積もる話をたくさんして来ました。私の娘夫婦が中井さんの住まいと比較的近い位置に住んで居ます。私は孫を訪ねて時々足を延ばしています。彼も立派なお家をお持ちなのですが、殆ど大阪市内にお住いの娘さん宅で過ごすことが多いとかで、この日も偶然猪名川に立ち返っていたとのことでした。良いタイミングで遭遇したのでした。

もうすぐ春も目前かと!コロナの猛威に気を付け乍らどうぞご自愛下さい。

畑です。 此方こそ本年も宜しくお願い致します。

北辰会で色々お世話して頂いている事に敬意を表しています。

私も今年で78才になり自分でもビックリしていますがまだ元気に農作業が出来ており健康には感謝しております。

今世間ではコロナ一色で何か心が晴れませんが、今年も頑張って行こうと思っています。

畑地さんも健康に気を付けこれからの活躍を願っています。

23期の友が年末12月に彼の地/十三に集結する。

有元喜美代さん(旧姓:武田)^{ありもと きみよ}、吉田雅江さん(旧姓:又川)^{よしだ まさえ}、金城奉周さん^{かねしろ ほうしゅう}、畑地豊(筆者)^{はたじ ゆたか}(いずれも大阪、神戸に在住)

昨年8月に有元喜美代さんから突然57年ぶりに現住所のお知らせが入った。ご高尚、母校が2009年に閉課程となった今日、卒業生会員の増加は望むべくも無く、どちらかと言うと自然減少を余儀なくされる。ここに来ての増員は“大歓迎”である。まさに“金の卵”と言っても過言では無い。

23期幹事として「Welcome」の連絡をさせて頂いた。有元さんとても喜んで下さって「とにもかくにも早く再会したいものである」と希望を頂いたが、時まさに一コロナ下剋上「はいそうですか」と容易に思う様にカジ取り出来ない。何回か電話で北辰会のことや23期のみんなのことなど可能な限りの情報交換を実行して来た。

11月末頃、世の中少し落ち着きを見せ始めたことを好機として尚且つ『細心で最大の注意を払うこと』を申し合わせ、50年ぶりの再会を、そしてその場所を「十三」と選んで、果たしたのでした。

4人全員年を感じさせないほど「ぴんぴんしゃんしゃん? 超元気」そのものでした。

関東地区からもお便りが届きました。

小出 優和さん^{こいで まさかず}(茨城県鹿嶋市在住)

北辰会23期の畑地幹事殿

寒中お見舞い申し上げます。早々のご挨拶を頂き、恐悦至極に存じ申し上げます。

世の中情報過多に、食傷気味で油断していると、今回のような事態に、世の中には、コロナ禍にあって自宅にこもり、もくもくと過ごす人、人里離れて里山、諸公園、海岸線、度胸のある人は旅行に、私も11月は1週間弱故郷を旅しました。びっくりしたのは、飛行機の満席、往復、帰路では、キャンセル待ちのアナウンス嬢のキャンセルはありませんの一斉放送(広島空港にて)。

日本人には、従順人種が多く、その中に会って、旅行業者が2組、20から25人グループで広島観光か!ガイドさ

んの説明に聞き入っている姿もオールマスクに、なるほど、人を見るより今が絶好の行楽日と詠む人にきっと“広島モミジ”が歓迎してくれたことと。

顧みるに、「ポンコツ会」のキーマン山本悦郎さんが昨年亡くなって、おんぶにだっこで大変申し訳ないと。

貴殿の宛先メンバーを見るにつけ、二、三人の方以外は55年以前の過去が鮮明に思い出されるのはなぜでしょう。悲しいことに、直近の物忘れにあきれながら、20年前までは、前進あるのみに燃えた時代もあったに。今は、落穂拾いの人生路ながら、生きてる証を示したいと模索進行中。老いにはまだ早い、当面の目標は「大阪万博」23期の皆さんにお会いできる可能性も信じて。酔っぱらって脳の潤滑が効くと思うがままで長引きました。皆様に元気でやってるよとお伝えください。東京の大山さんと、コロナが収まったら、荒木(山根)康久さんに会いに行こうと年賀を交わしました。

彼は5日以降また四国から自転車旅行の気まま旅と思います。

千葉に立ち入るときは声かけてくれるかな!とお願いしましたが。 以上 またね!! 小出

(編者注:句読点以外は原文のまま)

事務局からの報告

2021年北辰会事務局報告

1. 2020年幹事会議案書の承認の報告

2020年から2021年にかけては新型コロナウイルス感染拡大の影響で北辰会の会議、同期会はほぼ開催出来ませんでした。これは高齢化が進む北辰会にとって大きなダメージを与えるものと思っています。

その中で2020幹事会議案書は幹事会開催が不可能な中、コロナ感染が少し収まった7月に北辰会拡大常任幹事会を開催し、北辰会会長特別決

裁事項として幹事会議案書を会長に承認して頂きました。

2. 2021年北辰会事務局活動と当面の活動

北辰会の諸会合はほぼ全面的に開催できていません。以下の通りの活動を強める事の意味統一致しました。

①2021年北辰会会計報告 別項 会計報告表。

イ. 佐藤会計監査様より2022年1月18日に会計監査をして頂きご承認を頂きました。

ロ. 基本的ランニングコストにとどまり、2020年に比べ10万円支出が削減致しました。繰越金は202,7万円あります。

ハ. 賛助金は7名の方から6万4千円頂きました。15期Aさんより3万円、23期kimiさんより昨年に引き続きアメリカから送金がありました。

ニ. 29期竹本大鶴様の書「雲外蒼天」を額入りで北辰会から学校へ謹呈致しました。その費用5万円計上させて頂きました。

②2021年7月に北辰会報27号の発行

③北辰会HPの活動は継続的に記事の更新などを行い、その使命を果たしていると思います。(別項報告)

表1 2018年1月から2021年12月までの閲覧者数の推移

閲覧月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
2018年閲覧者数	1979	2062	2882	2504	2344	2489	
2019年閲覧者数	3817	3042	3728	3530	3530	2739	
2020年閲覧者数	2449	2347	3435	3367	3349	3373	
2021年閲覧者数	3455	3838	4307	5485	6646	5817	
閲覧月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	月平均
2018年閲覧者数	3648	2409	2568	3286	4194	3566	2828
2019年閲覧者数	2804	3024	3083	2704	2646	2609	3069
2020年閲覧者数	3788	4234	4292	4559	3574	3919	3557
2021年閲覧者数	4513	4823	3884	4208	5106	5511	4799

④2021年10月に新校長表敬訪問の後、1年振りに北辰記念室で北辰会拡大常任幹事会を開催出来ました。

イ. 2022年に幹事会開催出来る目途が付けば開催致します。

ロ. 北辰会総会を出来れば2年後2024年に開催する。

ハ. 北辰会報28号を発行する。

ニ. 北辰会HPの継続と充実を図る。

3. 皆様もお体に気を付けて会員間の情報の交換を図りながら元気に明るくお過ごしください

4. 2021年北辰会HPについて

2021年の月ごとの閲覧者数の推移を表1に示します。2021年は1月、2月こそ3,500件、3,800件でしたが、4月、5月、6月は5,500件を超える件数となり、特に5月は過去最高の6,646件を記録しました。アクセス解析すると、4月は母校の天野新校長先生赴任の紹介や、2018年の総会写真集、米国Kimi Orrさんの「文集を読んで」などが、5月は2018年総会同期写真集、歴史に学ぶ、6月は2020年の新教頭佐々木里佳先生紹介、29期竹本さんの「雲外蒼天」、23期畑地さんの「新しき門出」などが閲覧されています。7月から12月の間も、多少の増減はあるものの4,000件～5,500件の閲覧がありました。

年間を通じて、米国のKimi Orrさんと23期の畑地常任幹事さんのコンビによる多くの寄稿、29期竹本大鶴さんの書に関するニュースや書への取り組み・思いなど多くの寄稿、更には北辰会会員の諸先輩方から多くの寄稿を頂いた結果、会員を始め教育関係者の方々等、多くの方に閲覧して頂いたお蔭だと感謝しております。

5. 2021年賛助金を寄せて頂いた方のご芳名

(15期1名)匿名、(14期2名)元会長 川野眞次郎氏奥様英子氏、奥本晏三氏、(23期2名)有本喜美代氏、KIMI ORR氏、(25期1名)藤本恒子氏、(26期1名)岡田美乃利氏、以上7名の皆様から6万4千円賛助お寄せ頂きました。

6. 事務局からPC故障に伴うデータ消滅のお知らせとお詫び

事務局長のPCが2021年12月当初よりダウン致しました。そのためデータが全て消えてしまいました。3年前のデータしかバックアップされていません。皆様と北辰会に多大なご迷惑をお掛けしています。特に北辰会名簿については3年間の会員情報修正補足をしています。北辰会活動に支障が無いよう事務局の協力を頂きながら最大限の努力致しています。

**編
集
後
記**

今年も新型コロナウイルス感染拡大の影響により会合を伴う北辰会活動、同期会活動がほぼ開けていません。年齢を重ねられた諸先輩におかれましては歯がゆさ、物足りなさを感じておられることと思います。その様な中で「北辰会HP」は重要な情報交流の場となり、このHPを活用した23期の皆様のご活躍には目を見張るものがあります。

新型コロナが流行して早2年以上がたち、重症化リスクが少ないオミクロン株流行下であっても「北辰会の将来」の模索も始まりそうです。

私達も、天野校長先生の座右の銘であり、竹本大鶴さんが感動して揮毫された「雲外蒼天」を信じて、今後の活動に備えたいものです。

事務局一同